

新生活

修士1年 山田佳美

4月中旬に見ごろを迎えた桜は、その後急激に散り、今では葉が見ごろを迎えることとなりました。

青森の4月はまだ桜前線は上陸していません。この季節でも大雪が降ります。その寒さの中たたずむ桜は見事ですが、今年は見れそうにありません。

私がお世話になった北里大学は、獣医学部は1年目を相模原キャンパスで、2年目からは東北は青森、十和田キャンパスで3年間を過ごします。それまでの都会生活から一変して、牧歌的な緑あふれる生活は新鮮でしたが、辺りは畑しかないので遊びにも行けません。電車も今年廃線となりました。廃線となった十和田観光電鉄は利用者が極端に少なく、大体は農業高校の学生さんです。駅は無人で、切符ではなく整理券をとり、ワンマン運転なので前方1つめのドアしか開かず、下りる際に整理券とともに精算するというカントリー情緒あふれる電車でした。今となっては懐かしさと少しの寂しさがよぎります。

それまでの生活でお世話になった家具たちや電化製品に別れを告げ、3月終わりに青森を脱出、実家神奈川にて新生活の準備を始めました。とはいってもほとんどが引越し荷物の整理に追われていましたが。

4月が始まり、様々な気持ちを抱えて麻布大学に入学しました。最初は「変なやつ…関わ

らないでおこう」とか「田舎くさいやつだな」とかで村八分にされたらどうしよう…といった不安が大部分を占めていましたが、いざ研究室に来てみるとそんな不安は杞憂であったことがわかりました。

身構えていた私や新たに研究室に入った学生たちのために懇親会を開いてくださり、先生方をはじめ、同じ院生の先輩方や同期、4年生に温かく迎えられ、不覚にも目の奥が熱くなりました。また、学生の発言内容の濃さ、課題に臨む姿勢の前向きさに驚かされ、この中で自身も切磋琢磨していくんだという一層の意欲に掻き立てられました。新しい環境であたふたしている中、早々に不安はなくなり、今はこれからの生活に胸を躍らせています。

私はいろいろ足りない上に人からはよく変わった人間だといわれます。加えて寂しがりという面倒くさい小心者ですがよろしくしていただければと思います。まずは研究室の皆さんの名前と顔を一致させるところから頑張りたいと思いますので、しばらくは変な名前ですんでしまうかもしれませんがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。